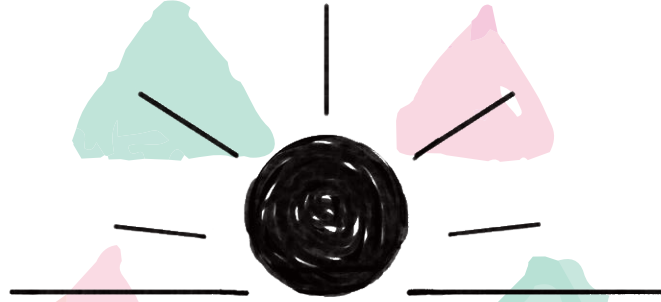


2026 春号



さん・サン メルマガ

高校・専門学校と福山大学が手をつなぎ、未来を創る

学部トピックス 高大連携校紹介

◇学部トピックス

経済学部
人間文化学部
工学部
生命工学部
薬学部

◇高大連携校紹介 広島県立戸手高等学校



福山大学イメージキャラクター
『ふくりん』



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

経済学部

経済学科 ◇ 国際経済学科 ◇ 税務会計学科

◇経済学科◇

就職先が決まりました！

経済学科4年 武田 大介さん(広島県立神辺旭高等学校)

経済学科4年の武田大介さんが、地元の銀行から内定をいただいたとのことで、お話を伺ってきました。

就職先を選んだきっかけは何ですか？

私が就職先として地元にある銀行を選んだ理由は、地元であるこの地域に貢献したいという思いがあったからです。生まれ育ったまちの企業や人を支え、地域経済の成長に自分も関わりたい——そんな気持ちが、就活中ずっと心の中心にありました。また、この銀行では若手のうちから幅広い業務に挑戦できる環境が整っており、自分の成長をしっかりと後押ししてくれると感じました。地域密着でありながら新しい取り組みに積極的な姿勢にも魅力を感じ、「ここで働きたい」と自然と気持ちが固まりました。



ゼミでの体験活動

学生生活を振り返って&高校生へ伝えたいメッセージ

私から高校生みなさんに伝えたいのは、「四年間って思っているよりずっと短い」ということです。入学したころは長く感じるかもしれませんが、気づけばあっという間に過ぎていきます。その中で、やってみたいと思ったことは遠慮せず挑戦してほしいし、人とのつながりも大切にしてほしい。失敗しても大丈夫。それも全部皆さんの財産になります。あのとき動いておけば…と後悔するより、「やってよかった」と思える四年間にしてください。自分が選んだ道はきっと将来につながります。そして何より、高校生活を思いきり楽しんでください。大学に入ってから時間は、本当にあっという間ですよ。



卒業論文の執筆に向けた準備

◇国際経済学科◇

2025年度 インドネシア・バリ島研修

夏休み期間に15名の学生が10泊12日間のバリ島研修を行いました。研修では、現地のマハサラスワティ大学の日本語や英語を学ぶ学生と一緒に様々な活動を行います。一緒にご飯を食べたり、出かけたりして、すぐにみんなと仲良くなりました。

研修では、まずマハサラスワティ大学で英語による授業を受けます。バリ島は観光客も多いので、英語でも生活ができます。スピーキングが苦手な学生も、街中ででてさっそく英語を使っていました。中には値切り交渉に挑戦する学生もいました。

午後には小学校や高校を訪問して、みんなで折り紙を折りました。インド



ティルタ ウンプル寺院での様子

ネシアでも折り紙は知られていて、みんな熱心に折っていました。他には、伝統的な楽器の体験、歴史的な寺院の訪問など、バリ島の文化に触れました。インドネシアはイスラム教徒が多い国ですが、バリ島ではほとんどの方がヒンドゥー教徒なので、バリ島独自の文化が多く、学生も初めての体験の連続でした。

学生の印象が大きかったのが、マングローブの植樹とウミガメ放流のボランティア活動に携わったことです。バリ島はマングローブが豊富な島ですが、近年漁業や観光のために開発され減少しているため、マングローブを復活させる試みが行われています。植樹には、まずカヌーを漕いでいき、腰まで浸かりそうな沼地を進む必要があります。みんな泥だらけになりながら植樹を終えました。ウミガメを増やす取り組みも行われていて、人の手で卵を保護し、ある程度大きく育てることで、少しでも生存率を増やそうとしています。それでも大きく育つ個体はほんのわずかですが、ウミガメの赤ちゃんは元気よく海へと駆け出していました。

研修を通してたくさんの刺激をもらったことで、すでに他の国へ出かける予定の学生もいます。これを機にさらなるチャレンジ精神を学生に期待しています。

◇税務会計学科◇

名物講義「備後経済論」：招聘講師数250名

税務会計学科の『備後経済論』は経済学部生が、地元企業さらに備後経済に対する理解を深めるとともに、就職活動の参考にすることを目的として、地元企業の経営者等を講師に招き、企業立ち上げの苦心談、経営理念、若い世代へのメッセージ等を熱く語りかけてもらう形式の講義です。平成15年度より開始し



て依頼、地元企業経営者や業界団体関係者の招聘数は、計250名に達しています。張楓教授は『備後経済論』の担当者・世話人として、平成28年より多くの学生に備後地域のものづくりの醍醐味と革新性を伝えられるように、備後地域に事業活動の拠点をもつユニークな企業を選び、企業訪問と備後経済論の趣旨説明を重ねています。そして、「備後経済論」が名物講義として企業経営者の間でも幅広く知られていることもあり、毎年10名以上に上る企業経営者や地域関係者の招聘と講演を実現させてきています。近年の講義では、学生により多くの時間を企業経営者との交流を深められること、また経営者をより身近に感じてもらえるよう、企業経営者の講義時間を90分から45～50分とおよそ半分にして、より多くの時間を学生とのディスカッションに割くようにしています。その効果もあり、学生の率直かつクリエイティブな質問に講師も驚き、ときには答えに苦労する場合も多々あります。このように、名物講義『備後経済論』は、福山大学経済学部の「白熱教室」となりつつあります。今後も、多くの学生が受講することを期待しています。

人間文化学部

人間文化学科 ◇ 心理学科 ◇ メディア・映像学科

◇人間文化学科◇

三蔵祭での人間文化学科の活動

2025年10月25日(土)・26日(日)の2日間にわたり開催された「第51回三蔵祭」にて、人間文化学科では学生有志が中心となり、学科の授業や学生生活を紹介するパネルや、学生の作品などの展示、スーパーボールすくい、射的、ダーツなどで遊べる縁日ブースの運営を行いました。

高校生や大学生からご高齢の方まで、幅広い年齢層の来場者の方々から、パネルで紹介している学科での学びについての質問や展示物についてのコメントをいただき、人間文化学科への関心を持っていただけたと感じました。縁日ブースは特に小学生やご家族連れに人気で、高得点獲得者にプレゼントする景品がほとんどなくなってしまうほど盛況でした。ご来場いただいた皆様や、有志で運営に参加してくれた学生たちや先生方をはじめ、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。



会場の様子

2026年4月から教員になる学生たちの声

人間文化学科4年 貝原 泰士さん (広島県立福山葦陽高等学校出身)

教員採用試験の対策として特に意識したのは、教職に関する専門教育科目と教科に関する専門教育科目の勉強を分けることです。教職に関する科目では、過去問を解いて復習を重ねたり、頻出内容を解説する学習動画を活用して理解を深めたりしました。教科に関する科目の対策では、古文・漢文ができていないことに気づき、参考書を使って基礎・応用を学びました。学習後には実際に古文・漢文を読んで訳せるか、単語や文法を理解できているか確認することを意識しました。採用試験に受かって、驚いたのと共に、嬉しい気持ちや安心などいろいろな感情がありました。来年度から教師として働くものとしてこれからも学びつづけ、知識をつけていく必要があると考えています。

人間文化学科4年 前田 紗絵香さん (広島県立福山明王台高等学校出身)

私は中学生の頃から「教員になるのもいいかも」という漠然とした夢を持っていました。そのため、教員免許を取得して教員になることを目標に大学へ入学しました。教職の授業は新しい知識を学べて楽しい反面、取得しなければならない単位が多く、しんどいと感じる時期もありました。しかし、3・4年生になると実践的な学習が増え、やりがいを感じるようになりました。また、教育実習では自分の実力不足を痛感しましたが、指導教員の先生方に丁寧に指導していただき、とてもよい経験となりました。こんな私ですが、この春から私立学校の教員として働くことになりました。「生徒から信頼される教員になる」という目標を胸に、これから精一杯頑張っていきたいと思います。

◇心理学科◇

公認心理師を目指して、福山大学から大学院へ！

心理学科 医療心理学研究室4年 廣瀬 陽斗さん (広島県立府中高等学校出身)

福山大学では、心理系唯一の国家資格である公認心理師を目指すことができます。心のケアについて学ぶ“心理臨床コース”と司法や犯罪に関わることを学ぶ“司法犯罪コース”の2つがあり、私は人の心の健康を支えるスペ

シャリストになりたいと思い入学したので、今は心理臨床コースで学んでいます。

公認心理師には対人支援に関する専門知識が必要になります。講義で学んだことや自分の専門領域について新しくわかったことを成果としてまとめ、学会発表する活動が活発に行われています。私も2024、2025年度に中国四国心理学会で発表してきました。発表テーマは「ゲーム依存」に関する研究で、どうしてゲームに依存するのか、どうしたら良くなるのか報告しました。発表までは論文を読んだり勉強したり大変でしたが、先輩・後輩たちに手伝ってもらったり学会で色々意見をもらったりする中で、心理学ってこんなに面白くて実生活に役立つんだと感じる場面が増えました。特にゲーム依存は中高生や大学生でも悩む人が多いテーマで、自分の取り組んでいることが誰かの役に立つかもしれないと考え、もっと心理学を学びたいという気持ちが強くなりました。

こうした経験を通して、私は外部の大学院に進学して心理学をさらに深く学ぶことを決めました。大学院では、勉強や研究だけでなく、実際に相談に来られる方の話を聞きながら、どうすれば気持ちが楽になるのか、どんな関わり方が必要なのかを学びたいと考えています。大学院を修了した後は公認心理師として医療機関で患者さんを支援したり、ゲーム依存に悩む思春期の子どもたちをサポートしていきたいと考えています。福山大学や学会発表で得た経験を活かして、将来的には、人の心の健康を支える専門家として社会に貢献し、福山の人たちに還元していきたいと考えています。



2025年度中国四国心理学会の様子
著者は左から2番目

◇メディア・映像学科◇

新任教員を紹介します！

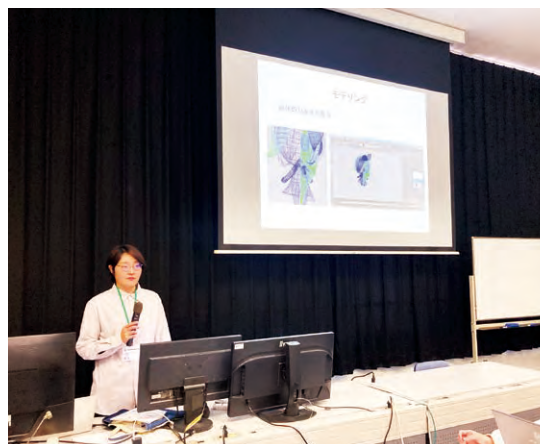
はじめまして。今年度9月より人間文化学部メディア・映像学科に着任した梶川瑛里(かじかわ えり)と言います。よろしくお願ひします。名古屋から引っ越してきて約2ヶ月、街を歩くとバラの花と出会ったりして、小さいけれど豊かな発見に驚かされながら毎日を過ごしています。

「驚き」は、私のこれまでの歩みをお話する上で欠かせない言葉です。最初の驚きは、映画の授業で映像表現の奥深さに触れたことです。もともとはキリスト教美術に関心を持っていましたが、この経験をきっかけに、大学院で映像研究に足を踏み入れました。第二の転機は、その過程で出会ったアイドルのミュージックビデオです。学部の頃に学んだ映像分析を用いると、一見楽しいだけに見えるミュージックビデオが複雑で奥深いものだとすることに気づき、現在の研究テーマに至りました。さらに、大学院時代の留学は、自分の研究を色々な角度から見つめ直す絶好の機会を与えてくれるだけでなく、大学での英語教育に携わる道を開いてくれました。

福山大学メディア・映像学科への着任も、大きな驚きをもたらしてくれた転機のひとつです。幼い頃の「芸術を作りたい」という夢は一度手放してしまいましたが、学芸員資格のための美術館実習やミュージアム運営をするボランティア団体への参加を通して、芸術とのつながりを保ち続けていました。今、このような形で表現を学ぶ学生のみなさんと関わることは、昔からの思いと今までの歩みが思わぬ形で交差した結果だと感じています。

福山大学では、これまでに培った芸術やメディアを「見て、考えて、語る」力を活かし、学生のみなさんの制作や表現活動を支援するとともに、教育や研究を通して新しい表現を身につけ、考えをより豊かにしていきたいと考えています。

福山大学では、これまでに培った芸術やメディアを「見て、考えて、語る」力を活かし、学生のみなさんの制作や表現活動を支援するとともに、教育や研究を通して新しい表現を身につけ、考えをより豊かにしていきたいと考えています。



工学部

電気電子工学科 ◇ 建築学科 ◇ 情報工学科 ◇ 機械システム工学科

◇電気電子工学科◇

SICE中国支部学術講演会で1年生・2年生の学生が研究発表！

今年度の計測自動制御学会(SICE)中国支部学術講演会が岡山駅前で開催され、福山大学からスマート農業、環境センシング、AI画像解析など多彩な研究発表を行いました。昨年度は本学が主催校でしたが、今年度も多くの学生が主体的に挑戦しました。

1年生の石本駿さん(広島県立福山工業高等学校出身)と前田篤志さん(東林館高等学校出身)は、前期授業で提案したAI画像解析ウェアラブルデバイスを改良し、視覚支援を目的としたシステムを試作してまとめ、登壇発表を行いました。また、2年生チーム(龍和希さん(岡山龍谷高等学校出身)、末光晴登さん、三谷彩人さん(広島県立福山工業高等学校出身)、依岡右恭さん(広島県立戸手高等学校出身)、原大智さん(広島県立賀茂北高等学校出身))は、プログラミング実習の授業で扱った多センサ統合ドローンの研究を継続し、龍さんが登壇発表を担当しました。会場では大学・高専から多くの研究者が参加し、活発な質疑が行われました。学生たちは厳しい質問に対しても懸命に対応し、大きな成長の機会となりました。夏休みも自主的に研究を進め、試作・実験・原稿作成までやり遂げた経験は、今後の自信につながります。



学会参加の様子

◇建築学科◇

卒業建築家3人展・卒業設計展を開催しました

福山大学建築学科 卒業建築家3人展 卒業設計展「還る。」を、学校法人福山大学社会連携推進センター、福山市西部市民センター、Café Anjin、三蔵祭にて開催しました。出展作品は、本学科を卒業し現在本学で設計・製図の指導をしている建築家、長岡正芳氏、平野毅氏、岡本康生氏の作品及び福山大学建築学科を2024年度に卒業・修了した学生の卒業設計7作品でした。建築学科でデザインを専攻する3年生有志11名が運営委員会を組織して、実施運営に取り組みました。

2026年度に建築学科は50周年を迎えます。毎年ご好評いただいている卒業設計展に加え、周年記念となるイベントを計画しております。

その第一弾として2026年2月13日(金)には、松永未来会議シンポジウム「福山大学建築学科学生による、まつながるケンチク発表会2026」を開催しました。1年生から4年生まで全学年の学生が松永をテーマに取り組んだ課題や設計について発表を行いました。中でも注目度が高かったのは、4年生の卒業設計です。松永駅北口の地域拠点や南口のクリークの利活用に関する提案があり、大きな模型は見応えがありました。第二弾として卒業設計展の企画を現在進めています。



学生が作成したチラシ



建築家の紹介



展覧会の様子

◇情報工学科◇

学生たちの挑戦が形になる瞬間

情報工学科の学生たちが、地域イベントや学会で大きな成果を上げています。

11月に開催された「じばさんフェア2025」では、コミュニケーションデザイン研究室が出展しました。研究室に配属されたばかりの3年生が中心となり、企画から運営まで担当。指差し操作で星空の勉強ができる「星空Touch」や、新感覚の「NEXT」ARめいろ」を展示し、訪れた子どもたちが秒数を競い合うなど大盛況でした。また、中国地方のIT系アプリコンテスト「フレッシュ ITあわ〜ど」では、4年生の伊藤潤平さんが優秀賞を受賞。画像や音声など様々な形式の情報からAIが自動で予定を抽出し、Googleカレンダーに追加できる「YoteiScan」を開発しました。さらに12月には「HCGシンポジウム2025」で、4年生5名、大学院生2名がポスターやデモによる研究発表を実施。工学だけでなくデザインや認知科学など多様な分野の研究者や企業の方々と議論を交わしました。

教室での学びを地域や社会に還元する。そんな実践的な学びが、ここにはあります。



じばさんフェアに出展



優秀賞を受賞



HCG シンポジウム 2025 で研究発表

◇機械システム工学科◇

大きいものから、小さいものまで、モノを作る技術

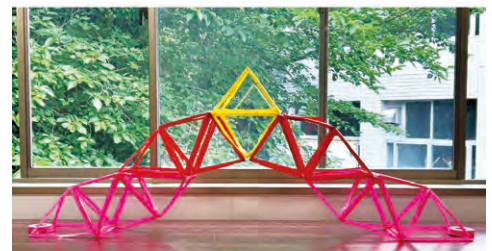
機械システム工学科では、2025年4月から新たに海洋機械コースをスタートさせました。船の技術を学べるコースです。

船は大きいですね。船や橋など大きなものを設計するときを使う理論は「構造力学」と呼ばれています。右の写真は、体験プログラムで、トラス構造を作成した時のものです。薄い紙テープでできているのですよ。断面形状を工夫すれば、紙テープでも、こんなに大きな構造物を造ることができるのです。

もうひとつは機械の加工の話題です。プラズマやレーザーを用いたナノ（超微小）レベルでの加工技術に関する研究が行われており、研究用レーザーでは金属やプラスチックに微細な加工ができます。右の写真は金属片に「FUKUYAMA UNIVERSITY」という文字をレーザーで彫っている所です。火花が光って迫力ありますが、この技術は、4年生が卒業研究のテーマとしており、現在まとめの段階で頑張っています。

これは、夏のオープンキャンパスの体験学習で紹介しました。自分で作ったトラス構造物や、レーザー加工で自分の名前を彫ったボールペンは、持ち帰ってもらいました。

2026年度の夏のオープンキャンパスもいろいろなテーマを考えています。機械や船に興味のある人は、ぜひご参加いただき、自ら体験してください。



紙テープで作ったトラス構造
四角錐を組み合わせることで、軽くて丈夫な大型構造物を作ることができた



レーザーを使った微細加工
レーザーを使って金属片に文字を刻印しています

生命工学部

生物科学科 ◇ 健康栄養科学科 ◇ 海洋生物科学科

◇生物科学科◇

野生動物との共存のために

7

昨年はクマのニュースが毎日のように報道されました。近年のわが国では、野生動物に関連するさまざまな社会問題が勃発しています。クマの市街地出没、イノシシによる農作物被害、外来種であるアライグマの生態系破壊、枚挙にいとまがありません。わたしたちが野生動物と適切な共存を実現するためには何が必要なのでしょうか。「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」ということわざがありますが、野生動物に関連する諸問題の解決のためには、野生動物のことを深く理解することが重要です。そのため「いきもの」について幅広く学ぶ生物科学科では、野生動物を題材としたさまざまな学びの機会を提供しています。例えば個体識別。読者の皆さんの見た目や性格が一人一人異なるように、動物たちは同種であっても一頭一頭異なります。人間同様、見た目は性や年齢によって変わりますし、親子は似ています(右上図)。

こういった個体識別は、人間にとって特に有害な個体を特定することを可能にし、野生動物による被害の防除に役立ちます。わたしたち生物科学科では、豊富なサルの写真をを使った神経衰弱ゲームを学習の中に取り入れ、個体識別を楽しく学んでいます。他にはフィールドワーク。野生動物の暮らしを理解するためには、生息環境に赴き、五感を使ってその生き様を体感することが不可欠です。生物科学科ではキャンパス周辺の大自然を活用し、実習や卒業研究の中で数多くのフィールドワークの機会を取り入れ、座学では決して得られない野生動物の「真の姿」を追求しています(右上図)。これらの実習を通し、野生動物に関連する諸問題の解決に資する知識と技術の修得を目指しています。



上の2頭は親子。じっくりみても、なんだか似ているような気がしませんか？



野外実習の様子。学内で飼育されているヤギも貴重な題材です。

◇健康栄養科学科◇

産学連携の食育活動を紹介します

健康栄養科学科では、産学連携の企画で中国新聞社、(株)ハローズと「親子食育教室」を開催しました。上記2社の関係者から地域の食育実践に是非福山大学と一緒にしたいとの声かけをいただき、当科も教員・学生総出で取り組みました。食育の対象は、小学生とその保護者という事で、賑やかに開催できました。

令和7年10月18日(土)に福山大学健康栄養科学科の調理



食育ミニ講義風景



料理の完成品

学実習室を会場に14組28名の親子参加者、学生は2年生8名、3・4年生10名、教員5名、ハローズ8名、中国新聞社3名、テレビ取材クルー5名、本学社会連携関係者3名など、調理室は溢れんばかりの大盛況でした。献立は、本学科2年生が試作を重ねながら完成させたレシピで、「彩りいなり寿司」「フルーツ茶巾寒天」「卵豆腐の澄まし汁」の三品です。また、この活動は「食デザイン演習」の授業でも進めました。

写真は、担当の松井佳津子准教授の食育ミニ講義、料理の完成品、調理風景の様子です。



調理風景：何を混ぜてるの？

朝食の大切さ、調理の楽しさなどをイラストを使用しながら、分かり易くお話をしました。なかでも2年生は調理指導をしたり、子供たちや保護者と楽しく料理作りができ、一緒に試食もしてとても満足そうな顔でした。

◇海洋生物科学科◇

海洋生物資源から機能性食品の開発

豊富な海洋資源から、新たな生理機能を有する食品の開発についての研究をしています。海藻由来のカラギーナンは食品添加物のゲル化剤や増粘剤として広く利用されており安価です。このカラギーナンを分解して機能性を有するオリゴ糖にすることが可能です。ここでは自然界からカラギーナン分解菌を探索し、その菌が分泌する酵素(カラギナーゼ)を利用してカラギーナンを分解し2~3糖類のオリゴ糖を作り出す研究をしています。得られたオリゴ糖はヒト腸内酵素では分解できず、大腸にてビフィズス菌に利用され整腸作用が期待できます。またカラギーナンは硫酸基を有しているため抗菌性等も期待できます。

また、カニ殻から得られるキチンはN-アセチルグルコサミンという糖が重合した多糖類で、医療や健康食品などに利用されています。このN-アセチルグルコサミンはアミノ糖で、関節炎の改善効果が報告されています。本研究では自然界より微生物由来の糖転移酵素を見つけ出し新規糖質の開発を行います。ここでの糖転移酵素はキチンオリゴ糖を分解すると同時に、生成するN-アセチルグルコサミンを遊離前に、他の物質(受容体)に結合させる酵素で、例えばブドウ糖を反応に加えておくとブドウ糖にN-アセチルグルコサミンが結合した2糖類のオリゴ糖が得られることになります。

この受容体となるブドウ糖を他の糖に変えることで何種類もの新たなオリゴ糖が合成できます。



奥飛騨 西穂高口にて(倉掛)



土にいる菌(左) 分離菌(右)



海藻(紅藻類)

薬学部

薬学科

◇薬学科◇

ゲノムアカデミア、絆を深めた夏合宿―「第51回三蔵祭」に向けて前進!

薬学科 講師 半田 由佳

ゲノムアカデミアは、大学祭を盛り上げるために活動している薬学部のグループです。10月に催される三蔵祭に向けメンバーの結束を高めるために、一泊二日の夏合宿を行いました。福山大学附属内海生物資源研究所にて、薬学部1～3年生22名と教員2名が寝食を共にしながら過ごしました。

【1日目】フェリーで因島へ移動 → レクリエーションで交流 → 大学祭に向けた話し合い → 大学祭で人気のDNAストラップ作り → 海の横でバーベキュー → 就寝

【2日目】起床 → 朝食 → 福山大学マリンバイオセンター水族館の鑑賞(海洋生物科学科の学生による案内) → 研究所の片付け → 昼食 → 因島大橋散策 → しまなみビーチで海を満喫 → 帰途

合宿に参加した1年生9名の出身地は地元であるびんご地域から九州や関西までさまざまで、初めて言葉を交わしたメンバーも少なくなかったようです。この合宿では1～3年生そして教員が学年などの垣根を越えて交流しました。レクリエーションでは参加メンバーの意外な一面が垣間見え、バーベキューでは将来の真面目な話から恋愛相談まで話題がつかまることはありませんでした。普段の大学生活では味わえない楽しい時間を皆で共有できました。結果が高まったメンバーたちは、知恵を出し合い協力して大学祭の準備を進めました。三蔵祭では模擬店のワッフルともちポテを完売し、新しい企画コーナー「ワクチンが病気を防ぐ仕組み」は1,500名ほどの来場者を迎えました。「ワクチンと免疫」の模型解説、細胞釣り、顕微鏡観察、DNAストラップ作りなどにより生命科学や薬学の魅力を伝えました。日々の勉強をこなしながら準備にいそしむ学生達の底力、そして笑顔いっぱいに来場者を迎える姿をととても頼もしく感じました。今後の学生達のますますの活躍と成長が楽しみです。



海洋生物科学科の学生とともに「DNA二重らせんポーズ」



「DNAストラップの作り方」を先輩が後輩に伝授



三蔵祭の企画展示コーナー
「ワクチンが病気を防ぐ仕組み」

福山市薬剤師会と連携し災害の研修会を行いました

薬学科 准教授 五郎丸 剛 (広島県立大門高等学校出身)

薬学部5年次には計5か月の実務実習(薬局実習、病院実習それぞれ2か月半)があります。その薬局実習中に「薬剤師と災害対策」というテーマで、福山大学薬学部と福山市薬剤師会が連携し、研修会を行っています。令和7年は3回実施し、ここには7月開催の様様を記しています。講師は、本学薬学部卒業生の広島県薬剤師会災害対策委員長 串田 慎也 先生で、薬剤師および実習生計27名が参加しました(写真左上)。研修会の後半

は、災害時の避難所運営ゲーム (HUG) を行い(写真右上)、盛り上がった一方で災害時の避難所における様々な問題点が浮かび上がりました。また、モバイルファーマシー(移動薬局)の見学も行いました(写真左下)。モバイルファーマシーの内部には調剤台や自動分包機がありました(写真右下)。近年、災害の頻発化・激甚化が問題となっています。災害発生時の薬剤師の役割について、多くを学ぶことができ、大変有意義な研修会でした。これからも現場での実践力を兼ね備えた薬剤師になるための教育を展開していきます。来年度も開催します。



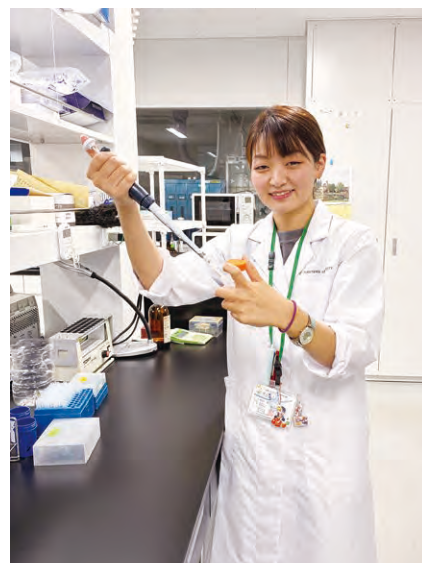
10

薬学の学びから広がる新しい発見

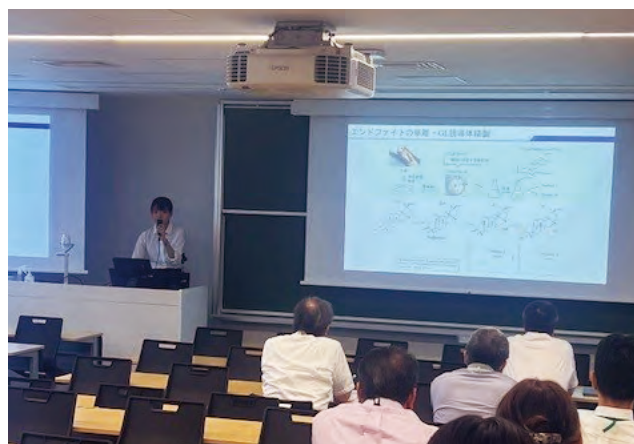
大学院薬学研究科 博士課程3年 町田 葵さん (東京女学館高等学校出身)

大学院では、学部で学んだ知識をもとに自分のテーマを深く掘り下げ、まだ世の中にない答えを探していきます。私の研究では、脳出血という病気で起こる炎症を抑える新しい薬の候補を見つけることを目指しています。薬の候補となる化合物をつくり、その効果や安全性を実験で確かめながら、少しずつ改良を重ねています。薬学部では、薬のつくり方だけでなく、体のしくみや病気の成り立ち、薬が体の中でどのように働くのかなど、多岐にわたる分野を学びます。研究を進めるうえでも、化学・生物・医学など様々な知識がつながっており、薬学の奥深さを日々感じています。実験が思うように進まないことも多々ありますが、自分の手で確かめた結果が積み重なり、一つの答えに近づいていく過程には大きな達成感があります。大学院での研究生活は、地道な努力の連続です。英語論文の執筆や学会発表を通して自分の考えを形にする難しさを実感する一方で、先生方や仲間との議論から新しい視点を得られること

も多く、毎日が刺激に満ちています。



実験をしている様子



高校生の皆さんには、薬学の学びが“薬を扱う”ことにとどまらず、“人の健康や命に関わる科学を探求する学問”であることを知ってもらえたらうれしいです。興味をもったことを掘り下げ、自分なりの問いを見つけていくことが研究の第一歩になります。薬学には、その探求心を形にできる面白さがあります。ぜひ、自分の「知りたい」という気持ちを大切にしてみてください。

高大連携校
より…

《戸手高等学校の紹介》

本校は、創設107年を数える歴史と伝統のある学校です。平成10年4月に広島県立戸手商業高等学校と広島県立至誠高等学校の2校が統合され、新たに総合学科の広島県立戸手高等学校となりました。生徒は、自分の希望に応じた科目を選択することで、就職から専門学校・短期大学・4年制大学までの進路が実現可能です。

令和6年度卒業生については、4年制大学へは71名（福山大学へは34名）、短期大学へは12名、専門学校へは79名が進学しました。また、国公立大学には山口大学、愛媛大学、広島市立大学、福山市立大学に4名が合格しました。進学以外では、公務員に1名、民間企業に25名が就職しました。

生まれ、未来創造人

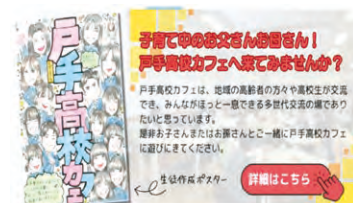


福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

【授業】 本校は、総合学科の特色を活かして、一人ひとりの進路希望や興味・関心に沿った授業を選択することができます。普通科では受けられない商業や福祉などの専門科目も充実しているので、実践的な授業を通して専門的な知識や技術を身に付けることができます。授業では、自己決定の場や自己・他者の存在を認め合う活動を通して、生徒一人一人が目標に向けて意欲的に学習に取り組めるような指導を心がけています。また、すべての教員がICTを効果的に活用した授業の実現を目指して、校内研修や授業改善にも積極的に取り組んでいます。



【探究活動】 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を軸に、地域から学び、地域に貢献する生徒を3年間かけて育成することを目指し取り組んでいます。1年次に自己を見つめ、2年次で自分と社会をつなぐ学習を行い、3年次で「地域を笑顔にする」のテーマのもと、『備後学』『認知症カフェ』等、様々な講座に分かれ実際の地域活動を行っています。この3年間の学びを通じて、生徒たちの自己肯定感が高まり、将来を主体的に考える姿勢が広がってきました。



【一人一役】 「戸手高校を『明るく楽しい学校』にするために、一役買ってください。あなたの手で戸手高校をつくりましょう」。本校の委員会活動は、全員「一人一役」（つまり何らかの委員）を担い、運営しています。課題発見や目標設定を自ら行い、企画し、実行する。今年度からスタートしたこの取り組みに、生徒たちは試行錯誤しながらも、学校生活がより生徒主体なものへと変化しつつあります。先日の体育大会では、これまでなかった応援合戦を生徒自ら企画し、例年以上に盛り上がりを見せました。



【部活動】 本校には、運動部11、文化部14の部活動があります。その中でも、ウエイトリフティング部は、広島県内の高校では、唯一、本校にしかありません。ウエイトリフティングは、ただ重いバーベルを持ち上げるだけでなく、技術・集中力・瞬発力が求められる奥の深いスポーツです。努力を重ねることで、着実に記録が伸びていくのが大きな魅力です。男子も女子も活躍できる競技で、大会では体重によって階級分けされるので、小柄な選手も活躍できます。毎年全国大会に出場しており、全国大会入賞を目指して日々の練習に励んでいます。



問い合わせ先

入試広報室

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
Tel 084-936-2111(代)・084-936-0521(直)
Fax 084-936-2160
E-mail kouhou@fukuyama-u.ac.jp
<https://www.fukuyama-u.ac.jp/>

発行：福山大学 編集：入学試験委員会

f 福山大学公式Facebook

福山大学の情報を
LINEからお届け！
LINE@

